

羽田空港機能強化に係る第3回協議会以降の取組

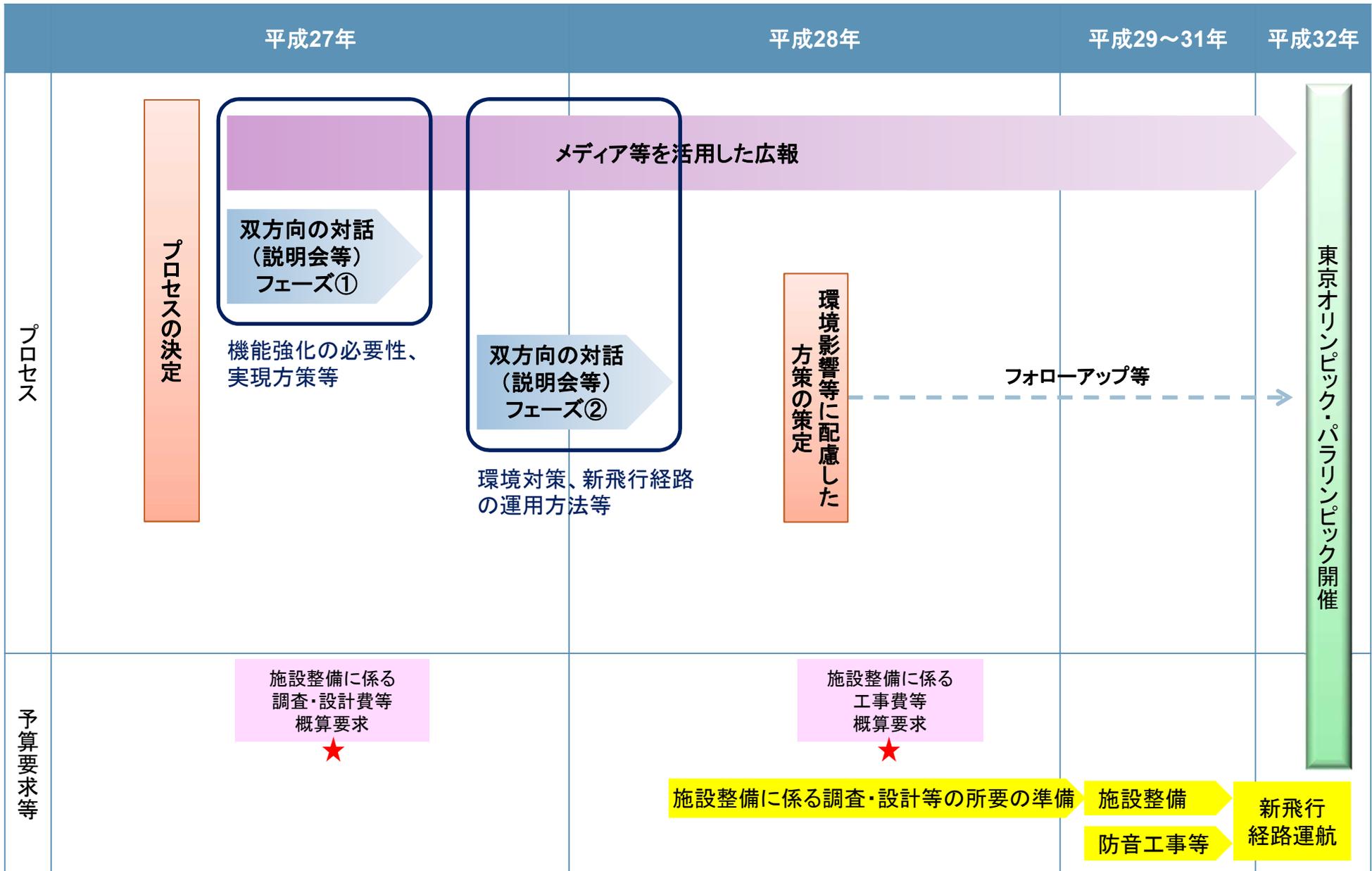
関係自治体からの主な発言

- 羽田空港の機能強化に必要なとなる施設整備のために、国が平成28年度概算要求に所要の調査・設計費等を盛り込むことは理解した。
- これから始まる住民説明では、自治体も協力するので、新しい飛行経路の設定理由、騒音影響、落下物対策も含め、住民に対して丁寧に説明してほしい。

対する国の考え方の表明

- 平成28年度概算要求に施設整備に係る調査・設計費等を計上して、準備を開始することにご理解を頂いた。
- 住民説明においては、飛行ルートの設定理由、騒音影響、落下物対策等について、関係都県や区市と協力して、丁寧に説明して参りたい。また、頂いたご意見について、積極的に公表して参りたい。

羽田空港機能強化に向けたプロセス



説明会の開催場所(第1フェーズ)



開催概要

日程:平成27年7月22日～9月15日
1都2県の16会場で全48日間
来場者数:約6,000名

＜オープンハウス説明会の概要＞

- ・主要ターミナル駅周辺で、土日を含め各会場数日間開催。
- ・職員が期間中常駐し、来場者にマンツーマンで対応。

結果概要

羽田空港機能強化の必要性・実現方策

- ◆ 国際競争力の強化、訪日外国人への対応、利便性等の観点から、機能強化の必要性については理解を示す声が多かった。
- ◆ 一方で、実現方策については他の選択肢がないのか尋ねる声が多かった。
「提案された経路以外の経路はないのか」、「滑走路を増設すればいいのではないか」、
「第3空港を建設すべきではないか」



＜オープンハウス説明会の様子＞

飛行経路見直しに伴う懸念等

- ◆ 新飛行経路に関する詳細情報を求める声が多かった。
「騒音の想定値をきめ細かく示してほしい」、「飛行機の見え方を知りたい」
- ◆ 騒音を心配する声が多かった。
「新飛行経路の運用方法の工夫により騒音負担を軽減できないか」、「影響が大きい地域には防音工事を実施すべきではないか」
- ◆ 安全性を心配する声が多かった。
「落下物対策を強化すべきではないか」、「更なる安全対策を実施すべきではないか」

開催概要

日程:平成27年12月11日～平成28年1月31日
1都2県の18会場で全47日間
来場者数:約5,100名

<オープンハウス説明会の概要>

- ・主要ターミナル駅周辺で、土日を含め各会場数日間開催。
- ・職員が期間中常駐し、来場者にマンツーマンで対応。
- ・第2フェーズでは、第1フェーズで頂いた意見を踏まえ、飛行映像コーナーや地域ごとの詳細なルート図などを用意。

結果概要

羽田空港機能強化の必要性・実現方策

- ◆ 羽田空港の国際線増便について、引き続き高い関心が示された。
(国際競争力の強化、地方の活性化、訪日外国人への対応、利便性等)
- ◆ また、何故このような飛行経路の見直しが提案されているのかについて、他の選択肢が見当たらないことも含めて、深く知っていただいた。



<ヘッドフォンを用いた飛行映像コーナー>
実際に近い形で飛行機の見え方や音を体験

環境や安全への配慮、対策の要望

- ◆ 詳細なルート図を提示するとともに、実際に近い形で飛行機の見え方や音を体験していただくことで、影響の程度がよく分かったとの声をいただいた。
- ◆ 騒音や安全性への配慮を求める声や、具体的な対策を要望する声もいただいた。
 - ・ 運用上の工夫 「高度を出来る限り引き上げてほしい」、「運航頻度を少しでも下げてほしい」等
 - ・ 音に関する対策 「航空会社に対し、より静かな航空機の運航を促してほしい」、「騒音が心配な地域では、防音工事を実施してほしい」等
 - ・ 安全対策 「外国航空機を含めた安全対策を強化してほしい」、「落下物について万全の対策を講じてほしい」等

➡ 今後も、より多くの方々に知って頂けるよう、多様な手法を用い、情報提供の取組みを強化する。